破壊

空っぽの自己という器
満たされぬことのない器
次々と注がれ、尽きることなき嫌悪
神々の世界―――時間(とき)

自殺以上に汚れ切った侮蔑
遥か遠く水の上に浮かぶものよ
誇らしげに微笑するものよ
僕はお前を憎む

細切れにされた存在より
単純明快な生命こそ美しいことは明々白々だ
存在とは集合でないことも…
だが、それを笑う輩が声高に叫んでいる

僕はようやく辿り着いたのだ
破壊の対象としての自己に・・・
すなわち破壊の後の懐胎へと
僕は辿り着くことができたのだ

ほくそ笑む宇宙
苦笑する産科医
落胆する市民共(ども)
群れ成すことで安心を得るがいい
吼え声を共鳴させ、虚空に向けて威嚇を放つがいい

(2003.9.28)